

**[土壁の発生と変遷]**

支配層の建物

庶民の家

	支配層の建物	庶民の家
古代	飛鳥時代：592～710 ●飛鳥寺金堂（606） ●法隆寺五重塔（607）	①下地 ②下塗り ③中塗り+上塗り ・壁づくりの工程は、現在も同じ
	奈良時代：710～794	
	平安時代：794～1185	白土→石灰・貝灰 ●壁は簡素（年中行事絵巻）
中世	鎌倉時代：1185～1333	
	室町時代：1336～1573 <small>応仁の乱 (1467～1477)</small>	●和室の原形（同仁齋）
近世	安土桃山時代：1573～1603	●塗籠式城郭 / 量的生産力拡大
	江戸時代：1603～1868	（文治政策・経済発展） 城下町の形成 → 町家 → （都市の防火対策） ●草庵茶室と数寄屋 / 質的意匠 ●土蔵の普及 <b>左官技術の完成</b>
近代	明治時代：1868～1912	濃尾地震（1891） 姉川地震（1909） → 耐震化の認識 防火条例 → 土蔵造り、公共建築に西洋様式、漆喰鍍絵
	大正時代：1912～1926	家屋耐震構造論 / 佐野利器（1915）...耐震補強 / 斜材 石膏プaster輸入 「市街地建築物法」（1919）
	昭和・戦前 / 戦中：1926～1945	↓ (土壁は非耐力壁)
現代	昭和・占領期：1945～1952 <small>終戦 (1945)</small>	●住宅不足450万戸 「建築基準法」（1950）
	昭和・戦後：1952～1989	●西洋式生活スタイル、住宅は真壁から大壁へ <b>都市部で土壁減少</b>
	平成：1989～	●兵庫県南部震災（1995） → 耐震化・木構造の研究 ●CO2削減 → 省エネルギー化 → 調湿性評価 <b>土壁住宅の激減</b> ●告示改正 / 2003.土壁構造耐力・2004.土壁防火構造 <b>(土壁は耐力壁) 新素材としての土壁に期待</b>

